

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長
(公印省略)

令和元年度病害虫発生予察特殊報第2号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和元年度 香川県病害虫発生予察特殊報 第2号

1. 病害虫名： トマト黄化病
病原ウイルス名： トマト退緑ウイルス(T o C V ; *Tomato chlorosis virus*)
2. 発生作物名： トマト
3. 発生経過
令和元年11月、香川県観音寺市の施設栽培トマトにおいて、葉に黄化症状を呈する株が確認され、ウイルス性病害が疑われたため、神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県では未発生の *Tomato chlorosis virus* によるトマト黄化病と診断された。
国内ではこれまでに九州、関東、中部、四国地域を中心に発生が確認されており、20都県から特殊報が発表されている。
4. 本病の特徴
 - 1) 下位葉から中位葉へと症状が進展し(図1)、発病の初期には、葉の葉脈間が退緑黄化し、斑状の黄化葉となる(図2)。
 - 2) 症状が進展すると、葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化する(図3)。
 - 3) 本病の症状は、生理障害の苦土欠乏症に似ており判別が難しい。
 - 4) 発病株では生育が抑制され、収量が減少する傾向が見られる。
 - 5) 本病はミニトマトでも発生することが知られている。
5. 病原ウイルスの特徴及び伝搬方法
 - 1) 本ウイルスは、クリニウイルス属に属し、タバココナジラミ(パイオタイプB及びQ)及びオンシツコナジラミが媒介する。
 - 2) 本ウイルスを吸汁したコナジラミは、数時間から数日間ウイルス媒介能(半永続伝搬)を有する。
 - 3) 本ウイルスが属するクリニウイルス属ウイルスは、経卵伝染、汁液伝染、種子伝染及び土壌伝染はしないことが知られている。
6. 防除対策及び注意事項
 - 1) 媒介虫であるコナジラミ類の防除を育苗期から徹底する。
 - 2) 施設の天窗や側窓の開口部には防虫ネット(目合い0.4mm以下)を展張し、コナジラミ類の侵入を防止する。
 - 3) コナジラミ類の循環や増殖をさせないため、圃場周辺の雑草除去を徹底する。
 - 4) 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取り、袋に密閉して圃場外に持ち出し、適切に処分する。

- 5) 施設外にコナジラミ類を分散させないために、栽培終了時はハウスを密閉しコナジラミ類を死滅させる。



図1 株全体の症状



図2 葉脈間の退緑黄化症状



図3 症状が進展した葉

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jpnpn.ne.jp/kagawa/>